

未来へつなぐ能登応援修学旅行

12班

要旨

令和6年能登半島地震の影響により、能登地域では観光客の減少や宿泊業の衰退が課題となっている。このプロジェクトでは、都会の小中学生を対象とした修学旅行プランを提案し、地域経済の活性化と復興支援を目指した。文献調査や旅行会社・宿泊施設への聞き取り調査を行った結果、震災学習に加えて自然体験や地域住民との交流を取り入れることが重要であることが分かった。また、修学旅行が将来的なリピーターの獲得につながる可能性も確認できた。これらの調査結果をもとに、一本杉通りや七尾城での学習、春蘭の里での宿泊・自然体験、のとじま水族館などを組み合わせた3日間の修学旅行プランを作成した。このプロジェクトを通して、修学旅行は能登の魅力発信と地域活性化に貢献できる取組であることが分かり、今後は地域や旅行会社と連携し、実現性をさらに高めていく必要がある。

1.研究背景と目的

能登地域では、令和6年能登半島地震の影響により、令和5年から令和6年にかけて能登の観光客の割合は、54.7%減少し、地域経済に大きな影響が出ている(図1)。

旅館やホテルなどの宿泊業では利用者の減少が続き、地域の活力が低下している。そのため、能登地域の復興や地域の活性化につながる取り組みが必要とされている。私たちは、地域を活性化するために、修学旅行に注目した。修学旅行では、多くの生徒が宿泊施設や観光施設を利用するため、宿泊業の需要が増えることが期待できる。また、生徒が能登の自然や文化、震災からの復興について学ぶ震災学習を行うことで、能登地域の魅力や震災を知る機会にもなると考えた。そこで私たちは、小学生に比べて行動範囲が広くより深い学びができる中学生を対象とした能登地域への修学旅行プランを作成・提案しようと考えた。このプロジェクトを通して、能登地域の魅力を伝えとともに、地域産業の活性化や、能登地域の復興につながるプランを検討する。

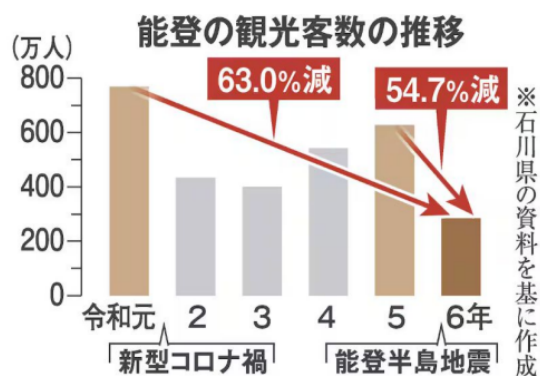


図1 能登の観光客数の推移

2.調査・分析

このプロジェクトでは、修学旅行を通して能登地域を応援するプランを提案し、その実現可能性について調査を行った。最初に作ったプランが図2である。 図2 最初に作成したプラン

その後、4月30日に東武トップツアーズへメールを送り、修学旅行プランに関する質問

プラン

<1日目>	<2日目>	<3日目>
一本杉通りで自由行動 七尾城	春蘭の里(宿泊) 自然体験	能登原子力センター 原子力・エネルギーの学習

に答えてもらった。また、5月19日に春蘭の里へ実際に行き、管理長に話を伺った。



図3 春蘭の里へのインタビュー

旅行会社や宿泊施設への聞き取りから、修学旅行は一時的な観光客の増加だけでなく、将来的なリピーターの獲得にもつながる可能性があることが分かった。特に、春蘭の里では、修学旅行で訪れた子どもが大人になって家族や友人と再び訪れる事例があり、実際に多くの手紙が送られてきていた(図4)。

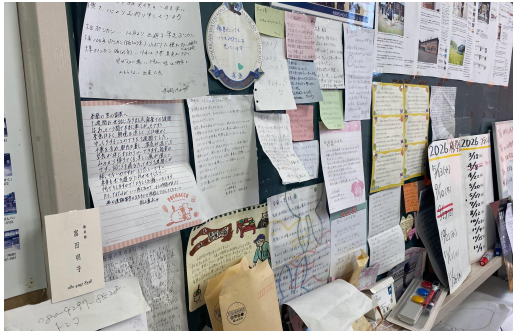


図4 春蘭の里への手紙

このことにより、地域の人との交流や自然体験が能登の魅力を印象深く伝える要因になっていることが分かった。また、旅行会社からは、震災学習だけでなく自然体験や観光施設を組み合わせることで、学習効果と満足度の向上が期待できるとの助言を得た。また、旅行の後半では集中力が切れやすいため、学習面の活動を前半に入れた。一方で、安全面や交通状況、受入体制、人手不足などの課題も明らかとなり、修学旅行だけですべての課題を解決することは難しい。しかし、修学旅行は地域経済への貢献だけでなく、能登の魅力を全国へ発信し、復興を継続的に支える取組として有効であると考えられる。

3. 解決に向けた提案と実践

まず、能登地域の観光客減少という課題の解決策として、都会の中学生を対象とした修学旅行プランを考案した。次に、旅行会社である東武トップツアーズへの聞き取り調査を実施し、学習内容や行程、安全面などについて助言を受け、プランの改善を行った。その後、修学旅行が地域経済の活性化や将来的なリピーターの獲得につながる可能性があることを確認し、具体的な3日間の修学旅行プランを作成した。さらに、宿泊施設である春蘭の里を訪問し、現

地調査や聞き取りを行った結果、人手不足や情報発信の難しさなど、新たな課題が明らかとなった。そこで、震災学習だけでなく、自然体験や地域住民との交流を取り入れた内容へプランを見直し、地域の魅力をより効果的に伝えられる修学旅行となるよう改善を行った。改善したプランは二泊三日の日程で構成した。

一日目は、修学旅行生が昼頃に七尾市へ到着することを想定して、修学旅行生の移動疲れも考慮し、午後は七尾市内を中心とした観光を実施する。七尾市では、能登食祭市場において遊覧船に乗船し、七尾湾の景観や自然環境を体感する機会を設ける。また、一本杉通りでは班別による自主研修を実施し、生徒が主体的に地域の歴史や文化、商店街の特色について学ぶ活動を行う。この活動を通して、地域の魅力を自ら発見するとともに、自主性や協調性を育むことを目的とする。その後、能登町へ移動し、春蘭の里の農家民宿に宿泊することで、地域住民との交流や里山での生活体験の機会を設ける。

二日目は、能登町を主な活動場所とし、ケロンの小さな村における自然体験や、のと海洋ふれあいセンターでの磯遊びなど、能登の豊かな自然環境を活用した体験学習を行う。また、この日も春蘭の里の農家民宿に宿泊し、能登半島地震を体験した町民から話を聞き、防災学習を行う。

三日目は、能登島水族館および石川県能登島ガラス美術館を訪問する。水族館では能登の海洋生物について学び、ガラス美術館では芸術や文化に触れることで、修学旅行の締めくくりとして学びと交流の成果を振り返り、思い出づくりにつながる行程とした。

4. 考察

このプロジェクトでは、修学旅行を通して能登地域を応援するプランを提案し、実現させるために調査を行った。その結果、旅行会社や宿泊施設への聞き取りから、修学旅行は単に観光客の増加だけでなく、将来的なリピーターを得ることにもつながる可能性があることが分かった。特に、春蘭の里では、修学旅行で訪れた子どもが大人になって家族や友人と再び訪れる事例があり、地域の人との交流や自然体験が能登の魅力を深く印象付け、伝える要因になっていることが分かった。また、旅行会社からは、震災学習だけでなく自然体験や観光施設を組み合わせることで、学習効果と満足度の向上が期待できるとの助言を得た。そのため、このプロジェクトでは学習と体験をバランスよく取り入れたプランへ改善した。

一方で、安全面や交通状況、受入体制、人手不足などの課題も明らかとなり、修学旅行だけですべての課題を解決することは難しい。しかし、修学旅行は地域経済への貢献だけでなく、能登の魅力を全国へ発信し、復興を継続的に支える取組として有効であると考えられる。

5. 今後の課題と展望

このプロジェクトでは、七尾市を目的地とした修学旅行プランを作成したが、行程内容にはさらに改善の余地がある。例えば、一本杉通りの自由見学のみでは震災学習としての学習効果が十分とはいえないため、語り部による講話や映像視聴、語り部列車などを組み合わせることで、防災・復興学習をより充実させる必要がある。さらに、のとじま水族館などの見学や自然体験などの体験型プログラムを取り入れることで、生徒の満足度向上も図ることができると考えられる。

行程全体についても、見学地の位置関係を考慮して移動距離を短縮することや、最終日に自由時間を設け、お土産購入や休憩時間を確保するなど、修学旅行としての満足度を高める工夫も必要である。

今後は、これらの改善点を反映した修学旅行プランを再構築し、春蘭の里をはじめとする地域の観光事業者へ提案したいと考えている。現場の意見を取り入れながら実現可能性を検証し、教育的価値と地域振興の両立を目指した修学旅行プランとして発展させることが今後の課題である。また、本提案が実際に導入されることで、七尾市への修学旅行誘致の促進や観光需要の回復、さらには能登地域の復興支援につながることを期待したいと考える。

6. 結論

このプロジェクトでは、能登の豊かな自然や文化を活用して、能登半島地震からの復興のための観光客数の増加を目的とした、都会の中学生向け修学旅行プランを作成した。

作成したプランは、自然体験や文化体験、環境学習に加え、復興に取り組む地域の人々との関わりや防災について考える機会を取り入れることで、児童・生徒が教室では得られない体験的な学びを深められる内容となっている。また、被災地を訪れることを「復興の現状から学ぶ機会」と位置付けることで、防災意識や地域で支え合うことの重要性について主体的に考える教育効果が期待できる。

さらに、このような修学旅行は、参加する児童・生徒の学びを充実させるだけでなく、春蘭の里の農家民宿を営む地域住民の交流を生み出し、交流人口の拡大や観光振興など、能登地域の復興にも一定の役割を果た

す可能性がある。教育と地域振興を結び付ける取り組みとしても、その意義は大きいと考えられる。

7.参考文献・協力団体

- 1)“能登の観光復興「南北差」解消が課題、
インフラ
復旧の遅れが資材や人員面で再建に影響”
産経新聞
2025-06-11 <https://x.gd/UTJYB>(参照
2026-03-04)
- 2)春蘭の里 <https://shunrannosato.info/>